

補陀洛山海住山寺

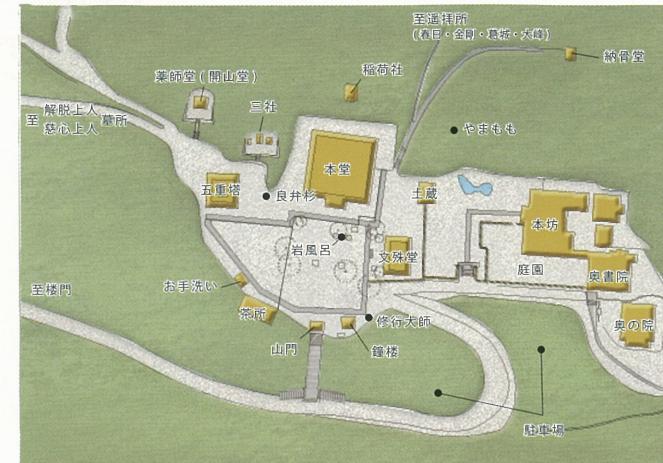
ふだらくさん

かいじゅうせんじ



【※印 通常非公開】

境内案内図



指定文化財一覧

【国宝】・五重塔

【重要文化財】

- ・本尊十一面觀音立像
 - ・十一面觀音立像(奥の院本尊)
 - ・文殊堂
 - ・法華經曼茶羅図
 - ・四天王立像(持國天・增長天・廣目天・多聞天)
 - ・海住山寺文書
- [貞慶仏舍利安置状、海住山寺起請文、修正会神名帳、
覺真仏舍利安置状、覺真置文、貞慶御筆跡安置状 他]

【京都府指定文化財】

- | | | |
|-------------|-------|-----------|
| ・釈迦三尊十六羅漢図 | ・三千佛図 | ・海住山寺縁起絵巻 |
| ・春日曼茶羅十六善神図 | ・銅梵鐘 | |
| ・本堂扁額 | ・樓門扁額 | |



年中行事

1月1日～3日	新年大護摩勤修・初詣
2月節分	節分会星祭祈祷
2月3日	解脱上人忌
2月3月午(うま)の日	男女厄除大護摩祈祷ご縁日
春彼岸	彼岸会廻向
4月17日	御影供本尊大法要・納骨縊供養
8月13日～15日	盂蘭盆会 棚経
秋彼岸	彼岸会廻向
10月上旬	根本佛教実践道場
10月下旬～11月上旬	国宝五重塔開扉・文化財特別公開
12月18日	大根焼き
12月31日	除夜の鐘

発行

〒619-1106

京都府木津川市加茂町例幣海住山20
TEL:0774-76-2256 FAX:0774-99-2024補陀洛山海住山寺 <http://www.kaijyusenji.jp/>

海住山寺について

『みかの原 わきて流るる いづみ川 いつ見ぎとてか 恋しかるらむ』の百人一首の歌で思られる瓶原(みかのはら)を一望におさめる地に、海住山寺が創建されたのは、恭仁京造宮にさきだつ六年前、天平七年(七三五)のことと伝えられております。大廬舎那仏造立を発願あそばされた聖武天皇が、その工事の平安を祈るために、良弁僧正に勅して「宇を建てさせ、十一面觀音菩薩を奉安して、藤尾山觀音寺と名づけたのに始まる」とのことです。しかし、この寺は、保延三年(一一三七)に灰燼の厄に遭い、寺觀のことごとくを失ったのであります。

その後、七十余年を経た承元二年(一二〇八)十一月、笠置寺におられた解脱上人貞慶が思うところであつてこの觀音寺の廢址に移り住み、海住山寺と名づけ、旧寺を中興されて、ここに現在の寺基が定められたのであります。觀音様の淨土は南海の洋上にある補陀洛山であります。淨土とは、生ある限りいかなる人も対決しなければならない人間苦・人生苦を解決した眞実の樂しみの世界を意味し、この世界に至る道が、いわゆる菩薩道(自他ともに眞実の智慧にめざめ、生きとし生けるものをいくしむ慈悲を行なう道)にはなりません。解脱上人は、この山をこうした菩薩道実践の場所とさだめて、觀音の淨土にちなんで海住山と名づけられたのであります。瓶原の平野と、その彼方に連なる山なみは、あたかも南海の洋上に浮かぶ補陀洛山のごとくであり、とりわけうす曇りの日に山上から眺める光景はその感を深くして、いみじくも海住山寺と名づけたものかとさえ思われます。

解脱上人貞慶(一一五五~一二二三)は、左少弁藤原貞憲の子で、幼くして興福寺に入り、貞憲に師事してひたすら研学につとめ、維摩会・最勝会の講師までも歴任した南都佛教界随一の学僧であり、身を

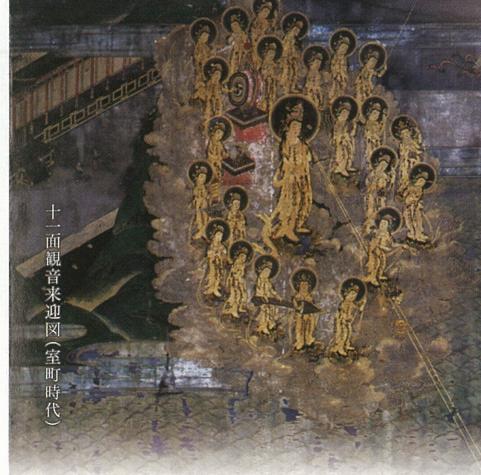
つつしむこときびしく、壯年に至り感ずる所あつて笠置山にかくれ、名利をのがれてもっぱら德をつまれた方でありますたが、晩年その心境がいつそうひらかれるにつれて、人々を教化して仏道にむかわしめるために、この海住山寺に移り住まれたのであります。上人は、弟子たちに「富勢名譽を望むは自己繼承の人にはあらず」と常におしえて戒律をおごそかにし、当山の草庵に移られてからも、戒律復興のため、南都興福寺の山内に常喜院を設けて律學の道場とさせております。この常喜院からは、後に西大寺の興正菩薩叡尊や唐招提寺の大悲菩薩観音などすぐれた高僧が輩出し、めざましい活躍をされています。

上人には、『唯識論尋思鈔』・『法相宗初心略要』・『法華開示抄』など当時の仏教学の最高水準をゆく幾多の著述がありますが、その深い内省ときびしい求道を物語る書に『愚癡癡心集』があつて、読む人の衿をたださせます。かの法然上人が淨土宗を開かれたとき、その徒の中には教をあやまり風儀をみだすものがありましたので、これを憂えて『興福寺奏状』を起草したのも上人であつたと伝えられております。

かかる世にたぐい稀な学徳兼備の高僧解脱上人の衣鉢をついだのは、慈心上人覺真(藤原長房、一一七〇~一二四三)であります。覺真是、後鳥羽上皇の側近でありますたが、当山で出家し先師の遺志をうけていよいよ戒律を厳しくし、また寺觀の整備に力をつくしました。現存の五重塔は、建保二年(一一四四)、先師一周忌の供養に際して解脱上人が後鳥羽院から持領した東寺、唐招提寺の仏舍利を納めるために覺真が完成させたものであります。小さくながらもよくとのい、特に心柱が初層で止められている点と裳階(もこし)が付けられているところは建設史上有名であります。



寺宝・文化財

十二面觀音來迎圖
(室町時代)

秋の境内



十一面觀音菩薩立像(重文)



本尊十一面觀音菩薩立像(重文)



解脱上人像※



四天王立像(広目天・增長天・持國天・多聞天)(重文)